

號 公 第 卷

結

軍令

一、咸海衛占領軍司令部交代ノ目的ハ、官公署該占領

第一師長、傳宣素

件名	番號	受領	廳名	提出	執行
咸海衛占領軍司令部交代ノ目的ハ、官公署該占領	第一師長、傳宣素	咸海衛占領軍司令部交代ノ目的ハ、官公署該占領	第一師長、傳宣素	咸海衛占領軍司令部交代ノ目的ハ、官公署該占領	第一師長、傳宣素

大臣 長

次官

參事官

主務局部長

主務課長

高級副官

主務副官

人事課長

主査課員

聯帶局部長

聯帶課長

聯帶課長

廳名 系 係 本 部

提出 廿九年五月九日

執行 年 月 日

馬部三三三

五月九日

淨者 校合

軍令第三大號

軍編制要領書ニ基キ交代ノ該團隊ヲ編成シ任地ニ向ヒ之ヲ
 派遣スル

但シ右法國隊ヲ編成スルニ當リ該國派遣ノ出動大隊
 ハ此大隊中ヨリ多量ニシテ見做スル要ム而シテ該交
 代ニ該大隊ノ編成完結スル者官ニ其隊ヲ以テ示シテ
 之ヲ報告スル

ニ派遣ノ事ノ關シ其官ニ此可大才ノ巨慮ヲ受ク可シ

三右交代ノ該團隊ニ任地ニ着ノ時ヨリ威海衛占領軍司令
 官ノ指揮下ニ據セシム而シテ其官品階出費ハ右團隊長ニシテ
 之ヲ此可大才並ニ威海衛占領軍司令官ノ覆報セシム可シ

奉勅 此可大才侯青大山 朱

威海衛占領可及官傳定案

五月十一日

一、其可波岩隊交代ノ目的ニテカ一隊中ヨリ交代スル編成シ不ハ
其地ニ派遣シ其官ノ指揮下ニ入ラシム但ニ交代スル品既出後
ノ時ハハ常該岩隊長ニテ其官ニ電報セシム

二、其岩隊三八号命令ニテ其官ノ指揮下ニ属セシカハ隊中ハ該岩
隊及編成ハ其交代無効者ノ時ヨリ其官ノ指揮下ニ属ス

三、其官ニ交代スル任地ニ到着テ既可大臣ニ電報ス可シ

奉勅

既可大臣 侯青大山 朱印

五月十一日



市分十一旅長、傳宣奉

一、各分三三八ノ旅令、以テ市街南中領可、合官、指揮下、
 隊とし、照我法名隊、及編立、其交代者、到着ノ時、其官
 ノ指揮下、隊ス

二、其官、右法名隊交代ノ目的、以テ不、其地、差違サハ、十才
 一、隊中、法名隊ト交代シテ、豊お國內司、港、上陸、同地ヨリ
 鉄道、中、海、成、地、帰還ス、但し、其官、門司港、上陸、時、司
 リカ、六、隊、長、ノ、指揮下、に、帰、降、ス、ハ、者、ト、ス

三、陸、海、輸、送、に、関、シ、其、官、隊、可、大、五、ノ、区、属、ラ、受、ク、可、シ、而、シ、テ、其
 海、陸、港、出、入、門、司、港、到、着、ハ、隊、可、大、五、井、ハ、才、六、隊、長、電
 報、ス、可、シ

水野

奉勅

陸軍大臣 侯爵大山 義

五月十一日

方六海軍長へ傳宣書

威海衛占領可免方六海軍長、該國隊及揚重に出る方六海軍長、
長、該部下に降し、方六海軍中、該海軍と交代豊本國内
可免、上陸内地より鉄道、由り海軍地、降重とし、但し該海
隊乃揚重、門可免上陸、時より重軍、指揮下、後降スル
ノトス而シテ其威、海軍出、及門可免、到者、該海軍長
シテ重軍、電報モシム

陸軍大臣

第一九六〇號

五月十一日

奉勅

陸軍大臣 侯爵大山 義

水野

陸軍省

才一師長、少連按

一、全回派をとり、威海衛に領軍を兵隊、要るに警備、エホヤ一
方面を署する要領スヘシ

二、并談海制要領、警備並に兵隊、係在る人、復に派警備に兵隊、以
て、此等者より、取居る

一、軍醫 四名

二、看護長 二名

三、看護人 四十名

(水野)

三、海軍 兵船

二、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

一、海軍 兵船

中世第一格を多く含む様

一、今日第一所見は、新々、海本と派をせうん、成海、海上、領軍、諸
 事、豫、海、城、別、冊、誤、り、領、軍、領、制、要、領、書、に、據、り

但、其、由、金、主、一、天、候、朝、舞、云、派、を、と、ん、り、以、て、右、海、城、より、相、隔、

ス、ト、モ、ト、ス

二、貴、方、の、一、次、諸、名、候、任、地、到、り、ス、ル、ヲ、待、て、其、玉、を、言、上、之、を、待、

ス、ト、

三、送、を、振、返、す、候、と、い、ふ、友、の、臨、時、陸、軍、運、搬、通、任、ア、相、儀、ス、ヘ、シ

五月十一日

工部、才、一、方、面、生、害、を、く、出、さ、し、候、

共、知、見、公、目

一、咸安館に領事交代の目的、翌年一師團を遣はし、清軍を逐ふ

と派兵せしむ

二、領事館を襲撃し、密具、密函、秘書等を奪取し、内々一師團を

出陣せしむ

五月十一日

臨時軍事運轉官に就ての書状

一、咸安館に領事館新設の目的、翌年一師團を遣はし、清軍を逐ふ

軍務制を改訂し、基に交代、清軍を逐ふ、海軍に東洋、鎮守

府を定むるに地を無敵に地を無敵にせしめしむ

但、朝鮮に派兵せしむるに、公使を遣はし、公使を遣はし、公使を遣はし

海軍に派兵せしむるに

水野

二、元次、諸要領感懐、所々より元次所至、諸要領より頼重之下
 交代し、皆より元次を擁護する、指揮下、唐土を渡り、門内、唐土
 口地より、鉄石、甲冑、武器、兵器、等々、皆々、元次所至、
 三、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、
 元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、

五月十一日

元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、

今、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、
 元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、
 元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、

元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、元次、

五月十一日



派

五月十一日

威海衛



長門朝敵をへにせしむる旨に
 一 出立一隊
 二 海兵一隊
 三 陸兵一隊
 四 工兵一隊

内閣總理大臣、外務大臣
 文部大臣、逓信大臣、陸軍大臣、海軍大臣、司法大臣、農商務大臣、文部大臣、逓信大臣、陸軍大臣、海軍大臣、司法大臣、農商務大臣

陸軍省送甲第七九號

五月十二日

陸軍省

高級副官より第一師団長へ通牒
 今因派遣せらるる威海衛占領軍工兵隊一方前在
 累より受領スル旨は達せられ海軍部員より受領スル
 中火具・糧食等ハ砲兵隊一方前在累より受領スル
 ト手紙知事等ハ此等及通牒ヤ

五月十四日

砲兵隊一方前在累より受領スル
 別添一通り威海衛へ派遣工兵隊用トシテ
 下米家へ送る取付ヘレ

陸軍部 第二〇二號

五月十四日

和

品	目	員	数	摘 要
工兵	雷		四五	
用火	電		一四〇	
臭	棉	四三吉八〇		千棉火薬二百七十四匁
	火			
	薬			
	速燃		二五匁	
	薄大			
	薬			
	ビツノール薄大薬		一匁	

陸
軍
省










陸軍省 領貳第一二一七號

二月十一日

軍令第一三六號

四月二十日

參日第二二二號第一

威遠衛占領軍交代、関スル命令

裁可奉行有之也

明治廿九年四月二十日

参謀長 彰仁親王

陸軍大臣 侯爵大山巖殿

裁可奉行有之也

等々也

威海衛古銀幣年代並隨文附之器具					
名	枚	負數	名	任	負數
十字銀		八	牙字番星花		但字番 一佰
四		一八	牙字		"
平		二	牙三		"
斧		四	牙四		"
地		一	牙五		"
楮		二	牙六		"
大		一	牙七		"

0674

明治廿九年度威海衛占領軍編制要領

威海衛占領軍編制要領

一般ノ要旨

第一 軍隊ノ編制ハ専ラ平時定員ヲ基礎トシ將校以下悉ク現
 役員ノ身ヲ以テ野戰隊ヲ編成ス故ニ之レカ爲メ動員ヲ行フ
 コトナシ但輜重輸卒ハ現役歸休中ノ者ヲ召集シ全軍交代ノ
 時マテ現役ヲ延期スルヲ要ス

第二 前項ノ主旨ニ基キ編成スヘキ團隊數左ノ如シ

一 歩兵一旅團

二 騎兵一中隊

三 野戰砲兵一中隊(野砲)

四 工兵隊一隊

第三 輜重及縱列ハ之ヲ編成セス彈藥、兵餉ノ如キ之レヲ要ス
 ルニ當リ倉庫ヨリ直接補充セシム

總 則

第四 野戦隊ニ必要ナラサル平時編制ノ職員及職工並未卒業ノ新兵ハ之ヲ除キ其屯營ニ殘留セシム

第五 中隊以下ノ小部隊ニシテ獨立セルモノニハ特ニ衛生、經理等ノ爲メノ職員ヲ附屬ス而シテ其人員ハ之レヲ編成スル聯(大)隊ノ職員ヲ分ツテ之ニ充ルカ又ハ他隊若クハ官衙ヨリ一時轉入ス可キモノトス

第六 下士上等兵ノ定員ヲ充タス能ハサルトキハ其候補者ヲ以テ之レニ充ツルコトヲ得

第七 兵卒ノ定員中ニハ新兵ヲ加ヘサルヲ以テ第三年兵ノ除隊ハ翌年五月マテ延期シ其間本隊ノ定員外トス

第八 各隊ノ行李ハ必需缺クヘカラサルモノ、ミトシ豫備被服ノ如キハ之レヲ省略セリ大行李携行ノ糧食ハ各自ノ一日分、馬糧ハ各乗馬ノ二日分トス炊具ハ部隊ノ大小ニ由リ一乃至二組ヲ携行ス

第九 乘馬將校ノ馬卒ハ總テ傭役者ヲ用ユ故ニ編制表ニハ之

レヲ省ク而シテ其人員ハ三頭ヲ有スル者二名、二頭及一頭ヲ有スル者ハ一名トス

第十 砲兵中隊増加馬匹及大小行李馬匹ハ現在占領軍ノモノヲ應用ス故ニ之レカ爲メ新ニ徵集ヲ行フコトナシ

團隊ノ編制

其一 旅團司令部

附表第一號

第十一 歩兵第二旅團司令部トス但シ副官一名、書記一名ハ之ヲ殘留セシメ占領軍旅團司令部書記ノ不足ハ歩兵聯隊ノ下士ヲ以テ補フ

其二 歩兵

附表第二號

第十二 歩兵第二旅團ノ兩聯隊トス但シ已ムヲ得サレハ同師團内他聯隊ノ一、二大隊ヲ該旅團ノ兩聯隊中ニ編入スルコトヲ得又若シ東京衛戍勤務ニ支障ヲ生スル場合ニアリテハ一

時他ノ衛戍地ヨリ一乃至二大隊ヲ東京ニ分遣シ同勤務ヲ補助セシムルヲ要ス

第十三 第四ノ主旨ニ依リ編制内ヨリ除キ殘留セシムル者左ノ如シ

一 聯隊附少佐及其乘馬

二 聯隊本部武器掛同喇叭長

三 大隊本部武器掛

四 諸職工長、下長(銃工長、下長ヲ除ク)及職工

五 未卒業ノ新兵

六 其他占領軍隊ニ必要ナラサル諸員

第十四 小行李彈藥ハ一銃ニ付約百發宛トス故ニ携帯彈藥ヲ合シ一銃約二百二十發ノ割合ナリ衛生材料、土工器具ハ戰時編制ノモノニ異ナル所ナシ

其三 騎兵

附表第三號

第十五 騎兵第一大隊ノ某一中隊ヨリ編成ス其人員ハ概予平

時定員ノ約半中隊トス

第十六 中隊獨立スルニ由リ増加スルモノ左ノ如シ

一 軍醫、獸醫、軍吏

二 看護長、一(二)(三)等書記、蹄鐵工(下)長

其四 野戰砲兵

附表第四號

第十七 野戰砲兵第一聯隊ノ某野砲中隊ヲ基幹トシ各中隊兵

卒ヲ合シ之レヲ編成ス其由テ生スル他各中隊兵卒ノ缺員ハ

歸休兵ヲ以テ之ヲ補フ又馬匹ハ基幹タル中隊平時定數ノ外

ハ現在威海衛ニ駐屯スル占領軍ノモノヲ引繼キ之レヲ充足

スルモノトス

砲車隊ハ野砲六門ヨリ成リ之レニ兩段列ヲ屬ス故ニ全ク戰

時編制ニ異ナル所ナシ

第十八 中隊獨立スルニ由リ増加スルモノ左ノ如シ

一 軍醫、獸醫、軍吏

二 看護長、一(二)(三)等書記、蹄鐵工(下)長

其五 工兵

附表第五號

第十九 工兵第一大隊某中隊ヨリ編成ス其人員ハ平時定員ノ約三分一中隊トス

第二十 小行李ハ戰時工兵一中隊ノ約四分一トス而シテ第一乃至第六號器具箱ノ如キ三分若クハ四分ニ分割シ能ハサル者ハ二分一ヲ附屬シタリ第七號器具箱ハ豫備トシテ之レヲ倉庫ニ格納シ置ク此諸材料ハ特別ニ附與ス可キモノトス

其六 輜重兵

第二十一 大小行李附輜重兵下士兵卒及輸卒ハ輜重兵第一大隊ヨリ分遣シ而シテ輸卒ノ不足ハ他師團ヨリ補充ス

附 記

第二十二 占領軍隊ハ必要ニ應シ舍營病院ヲ置キ軍隊附衛生

1890

部員ヲシテ其事務ヲ扱ハシム但シ之ヲ嬰スレハ特ニ衛生部
士官下士看病人若干名ヲ該病院ニ附屬スルヲアリ
病院用衛生材料及其他諸材料ハ陸軍省ヨリ支給ス

0689

第一號
威海衛占領軍

歩兵旅團司令部編制表

考 備 (一)副官ノ内一ハ占領軍副官之ヲ兼ヌ	旅團長	一	少 將	乘馬	大 尉	乘馬	中 尉	乘馬	下 士
	三 副 官	一							
	一 副 官	一							
	一 副 官	一							
	一 副 官	一							
	一 副 官	一							
	一 副 官	一							
	一 副 官	一							
	一 副 官	一							
	一 副 官	一							
	一 副 官	一							

步兵聯隊臨時編制表

階級	區分	聯隊本部				大隊本部		一中隊		聯隊(三大隊)計	
		人員	乘馬	駄馬	人員	乘馬	駄馬	人員	員	人員	馬匹
大	(中)佐	聯隊長 一	二							四	八
少	佐				大隊長 一	二					
大	尉	副官 一	一					中隊長 一			
中	尉				副官 一	一			二	四	四
少	尉	旗手 一									
特務	曹長								一		
曹	長								一		
一等	軍曹	書記 二							五	一四六	
二等	軍曹								四		
上	等兵								一四		
一	(二)等卒								一〇六	一、四四〇	
計		五	三		六	三		一三四		一、六三一	一二
二等	軍醫正	一	一							一	一
一等	軍醫									二	
二	(三)等軍醫									三	
看護	長									三	
看護	手									一二	
軍吏										三	
一(一)(三)等書記										三	
銃工(下)長										六	
輜重兵軍曹										三	
輜重兵卒										一四五	一四五
輜重輸卒		一			四六	四六				一八五	一四九
計		二	一	一	五六	三	四六	一		一八一	一六二
合	計	七	四	一	六二	六	四六	一三五		一、八二二	一六一

考 備
(一)大隊本部軍曹一ハ書記、一ハ喇叭長、二ハ炊事掛ノ分課トス(二)中隊一等軍曹ノ内一ハ給養掛ノ分課、兵卒ノ内四ハ喇叭手、一(二)等卒ノ内縫工靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス(三)一等軍吏ハ聯隊本部ノ會計事務ヲ兼掌ス(四)大隊輜重兵卒ノ内一ハ鞍工、一ハ蹄鐵工卒トス(五)聯隊附軍醫正ハ某一大隊ノ衛生事務ヲ兼掌セシム

行李馬匹區分表

品目	區分	聯隊本部				大隊本部		聯(三大隊)計	
		小行李	大行李	小行李	大行李	小行李	大行李	小行李	大行李
副馬		一				一		四	
彈藥					二〇			六〇	
衛生材料					一			三	
土工器具					二			六	
荷物並金櫃			一		六			一八	
炊具					六			二七	
糧秣					九			二七	
豫備				一				六	
合	計	一	一	二五	一二	一四三			

騎兵中隊臨時編制表

階級	區分	人員				馬	駄	馬
		人	員	乘	馬			
大	尉	中隊長	一		二			
中	(少)尉	二			四			
特務	曹長	一			一			
曹	長	一			一			
一	等軍曹	三			三			
二	等軍曹	三			三			
上	等兵	七			七			
一	(二)等卒	六三			六三			
計		八一			八四			
軍	醫	一						
看護	長	一						
看護	手	一						
獸	醫	一						
蹄鐵工	(下)長	一						
軍	吏	一						
一(二)(三)等書記		一						
輜重兵	曹	一			一			
輜重兵	卒	一			一			
輜重輸卒		二二						二二
計		三〇			二			二二
合	計	一一一			八六			二二

備考 (一)中隊一等軍曹ノ内一ハ給養掛兼炊事掛ノ分課、兵卒ノ内三八副手、一(二)等卒ノ内鞍工、蹄鐵工、縫工、靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス

大行李馬匹區分表

品目		馬數	
金櫃並荷物	二		
衛生材料	一		
炊具	三		
糧秣	一三		
鍛工具	一		
豫備	一		
合計	二二		

野戰砲兵(野砲)中隊臨時編制表

階級	區分	人員	乘馬	輓馬	駄馬
大	尉	中隊長	一		
中	(少)尉	三	三		
特務	曹長	一	一		
曹	長	一	一		
一	等軍曹	五	五		
二	等軍曹	一	一		
火工	下士	一	六		
上	等兵	一八	九		
一	(二)等卒	一七	八	九六	
計		一五四	三六	九六	
軍	醫	一			
看護	長	一			
看護	手	一			
獸	醫	一			
蹄鐵工	(下)長	一			
軍	吏	一			
一	(二)(三)等書記	一			
輜重	兵軍曹	一	一		
輜重	兵卒	一			
輜重	輸卒	二七			二七
計		三六	二		二七
合	計	一九〇	三八	九六	二七

備考
ス
(一)中隊一等軍曹ノ内二ハ給養掛、武器掛、一(二)等軍曹ノ内一ハ炊事掛ノ分課、兵卒ノ内四ハ喇叭手、二(三)等卒ノ内較工、木工、鍛工、縫工、靴工卒少クモ各二名、蹄鐵工卒少クモ四名ヲ含有ス(二)イハ彈藥車長、豫備品車長ノ乗用(ロ)ノ内四ハ喇叭手ノ乗用、殘餘ハ豫備トス

行李馬匹區分表

品目	馬數
荷物並金櫃	二
炊具	四
糧秣	二〇
豫備	一
合計	二七

臨時工兵隊編制表

階級	區分	人員			
		人	員	乘馬	駄馬
中	(少)	尉	隊長	一	
一	等	軍曹	三		
二	等	軍曹	二		
上	等	兵	五		
一	(二)等	卒	三五		
計			四六	一	
看	護	長	一		
一	(一)(二)(三)等	書記	一		
輜	重	上等兵	一		
輜	重	輸卒	一〇		
計			一三	一	一〇
合	計		五九	二	一〇

備考
(一)一等軍曹ノ内二ハ給養掛、炊事掛ノ分課、兵卒ノ内ハ喇叭手、一二等卒ノ内木工、縫工、靴工卒少クモ各一名ヲ含有ス(二)衛生事務ハ他隊ノ軍醫ヲシテ之ヲ兼掌セシム

行李馬匹區分表

品目	區分	行李	
		小行李	大行李
土工器具		一	
第一號器具箱	片背	一	
第二號器具箱	片背	一	
第三號器具箱	片背	一	
第四號器具箱	片背	一	
第五號器具箱	片背	一	
第六號器具箱	片背	一	
荷物並金櫃		一	
炊具		三	
糧秣		一	
豫備		一	
合計		四	六

卷之二十一

五月七日

參謀 昭長 彰仁 親王

陸軍大臣侯爵大山久殿

參謀部





 樂府詩集 卷之四 賦
 樂府詩集 卷之四 賦

經受第一〇册

明治廿九年七月二十日

參謀總長彰仁親王

陸軍大臣侯爵大山巖

子氏
款可書
風流之
西京
お毎な

參謀本部

6890



大臣
次官

人事課長



主査課員



高級副官



主務副官

参事官

主務局部長



主務課長



聯帶局部長



聯帶課長



受審

領號

朝方六八二一

廳名

海軍省

件

名

海軍省副官軍務課副官

執行

出升八年十二月廿七日

参謀總長 田中

昭和九年三月廿七日 海軍省副官

第三二五号

三月廿五日

三月廿九日

第一海軍省第二四二號 授合

軍隊防制表因編制要領書在在在在在
 以部第一協議之趣其存存存存存
 允裁下其後以四部所也

此等防制表等、防制要領書及防制表等

十一月廿八日

次官ヲ奏請本部次長、照會也

去廿三日奏請部長ヲ以て協議也其存存存存存

日部或海軍防制軍隊防制要領書中其存存存

防制要領書別表一通及一通加防制表等也

防制要領書、其存存存存存存存存存存存

及照會也

陸軍省

送乙第四八五一號

十一月廿八日

現在威海衛占領軍、對し明治三十九年度内交代軍、係ん經費豫算、別紙威海衛占領軍编制要領書並、同附表、依ルヘト垂テ書中未定及疑義、係ん事項ヲ本ノ如ク決定ス

一、歩兵二聯隊、第一第二聯隊、各二大隊ノ以テ基幹トシ之、歩兵第一第二聯隊、各一大隊ヲ編入シテ全三大隊ヲ成ルニ箇聯隊ニ編成ス

二、新、交代スヘキ占領軍諸隊定員中、新兵ヲ算セズ故、三十九年十二月新兵入營時期、於テ現役満期、相當スル第三年兵入營、新兵卒業後占領軍、編入シ傳テ現役ヲ延期シ三十九年入營、新兵、殘部聯大隊、於テ教育セシムモノトス

一、同軍諸隊、唐々へテ輜重輸送、輸送兵第一隊三、第二大隊、本年
三月入營せし輜重ヲ送テ之ヲ充ツ故ト、十九年五月、日清戦争退還
セシムヘテ輜重、其便由營セシムルモリトス

二、同軍東京在留時期ニ十九年五月一日ヨリトシ、其駐留期限、一箇
年ト仮定ス

三、同軍、為リ要スル糧食、常、五月分ヲ倉庫、貯藏セシムルモ
ト仮定ス

四、東京衛戍勤務補助トシテ名古屋に在、歩兵二大隊、一ヶ年間
東京へ駐屯セシムヘキモノト仮定ス

五、現在威海衛に領軍諸隊、帰朝後、経費、移轉時期、新交代ス
ヘキ同領軍東京在留後、一月、後ト仮定ス

七八、同軍諸隊復負ノ為ノ帰御セシムヘキ人負、其二軍事謀、於ル調

査ノ結果、依ルモノトス

八九、同軍諸隊諸般復舊ノ為ノ物件受授等ノ要スル經費、徒来ノ

経費、其據シ各分擔局課、於テ適宜決定スルモノトス

九十、同軍隊、補充隊ハ昭和二年^{大正}三月^{大正}有陽解隊^{大正}を以テ、但シ

補充隊ノ人負ハ明治三十八年^{大正}官期入營現役兵ノモノトス

在 軍 官

送し加ふそのり
 隊れふも成海諸
 文代下は編成中
 今ラは公府にお
 今十三日矢野村
 今日の加ふその
 招致おすも村に
 今が中は中村に
 今が中は中村に

軍一覽編覽第四二號

十二月廿三日

志者必山也

志者必山也



軍二

至急

本報 第九百九十一號

明年三月に交代せしむべき威遠衛駐
劄軍隊の編制の表を呈上し、制定せしめ
るに編制要領書が添付され、義也
と云ふ件、果に存するものか、抑、元裁否
は不明、一回答へて、此を以て、毎々申渡
す也

明治廿六年十二月廿六日

参謀長 彰仁親王

陸軍大臣 佐々木 大山 崇殿 殿

参謀本部



2690

至急

大臣		次官		人事課長		主査課員	
高級副官		参事官		主務局部長		主務課長	
聯帶局部長		聯帶課長		主務局部長		主務課長	
受番	領號	姓名	提出	執行	年月日		
件	名	成海系副軍医編成等件	朝茂六八一号	主軍子保	年月日		

成海系副軍医編成等件
 参謀總長、内閣書記官長、
 成海系副軍医編成等件、
 係諸經費



浄書
校合

十月七日

父追加豫算トシテ九議乞、要求ニテ言
 其經費豫算、その同年度内交代軍隊編成
 等、就中去年十月廿八日迄迄前記七ヶ郷
 迄去書、信費亦二八ヶ郷、四ヶ郷、一ヶ郷、
 豫算程五ヶ郷、已之交代軍隊編成、
 其細便、以之決之、上之、四ヶ郷、
 重子、及、

陸軍省送
送
第四五九號

區于交代軍隊，第一師長多派兵防之。然
自是日以後，如平、米、地三個所，皆以
有當地名族王為首，出告示，

十一月七日

十一月七日



高松藩

高松藩 第三八五一號

馬場中三郎 十二月五日

第一軍傳朝第二天四二號 十二月五日 壬寅月六日

送乙卯四月廿二日
諸般制軍隊の
長上より今後交代
成る也、爾に
及るに池田一連
乃中より
交代スハ本軍家ノ
編制在、如し

步兵一旅團

騎兵約半中隊

野戰砲兵野砲一中隊

工兵約三一中隊

二右各隊内野戰砲兵中隊ハ戰時
編制トシ其他ハ平時編制トシ之所
要ノ大不行李ヲ付ス

但編制ハ細項ハ追テ之ヲ定ム

三步兵彈藥ハ携帶彈藥及不行

李(步兵一大隊ノ彈藥駄馬二十頭)ノ

彈藥ヲ合シ一銃ニ付五百發砲兵

彈藥ハ砲車隊及西段列ト屬

ス凡モノヲ除ク外豫備トシテ一團

ニ付百四十發ヲ蓄ヘ糧食ハ常ニ

數ヶ月より準備ス
四交代兵ハ第一師管内ヨリ派遣
スルノ豫定

五乗船地ハ廣島縣宇品港
六交代ノ時期ハ三十九年五六月ノ交
以迄ヲハナシ三月中

参謀部長 新



陸軍省 大蔵省 山内

大蔵省

至

朝第六二號

閏

城

光

臨經第四三六號

重二八八

十月廿一

〇

抄

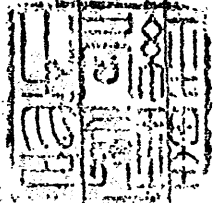
朱

新海高野刻年深遠二九年
後錄美個新之語年深編制
新本係錄長此照考之件
新本之由年深錄長此照考之件
新本之由年深錄長此照考之件

明治二十八年十一月二十日

年終百長

年終百長



本邦係此中之以照今案

或海商販賣而係係二十年

以後之販賣ハ毎年販賣額を以て求めず年々増えたる

十九年販賣額と同年販賣額に追加販賣額を以て之を結

ぶに計量するに於ては係係係係係係係係係係係係係係

係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係

係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係

係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係

係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係

係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係

係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係係

明治三十二年四月廿六日

參照卷目第九四回附錄



十月廿九日



經理

卷之八
 駐劄軍隊編制要領書中ノ未上ニ
 屬スル各少長トモ通定此加禱事ハ
 公お尋存件アロクモ知了子有ハ
 アロクモ知了子有ハ
 四巻也
 長テアロクモ知了子有中ニ駐止地ニ準備
 シ置ケルヤ深キ敷記載サレタル共右
 ハ年月日臨度等二八三ニ至リシ以テ参
 謀院長ヨリ軍大臣ニ回答セラル後

四君書ヲ三項ニ掲グル多敷ニ依リ縁々
 々々其年なるを念申海也
 明治廿八年十一月廿八日
 参謀少佐中島嘉平上様六
 月事次中島嘉平少佐見玉海太郎殿

現在威海衛占領軍ニ對シ明治廿九年度内交代軍ニ係
ル經費豫算ハ別紙威海衛占領軍編制要領書並同
附表ニ依ルヘシト雖モ書中未定及疑義ニ係ル事項シ左ノ如
ク決定ス

一、歩兵二聯隊ハ第一第二第三聯隊ノ各二大隊ヲ以テ基幹トシ
之ニ歩兵第一第十五聯隊ノ各一大隊ヲ編入シテ全三大隊ヨリ
成ル二箇聯隊ニ編成ス

二、新ニ交代スヘキ占領軍諸隊定員中ニ新兵ヲ算ス故ニ廿
九年十二月新兵入營時期ニ於テ現役満期ニ相當ス第
三年兵ハ翌年六月迄現役ヲ延期シ廿九年入營ノ新兵ハ

殘留聯大隊ニ於テ教育セシムルモノトス

三、同軍東京方發時期ハ廿九年六月一日ヨリトシ其駐劄
期限ハ一ケ年ト仮定ス

四、同軍ノ爲ノ要スル糧食ハ常ニ五ケ月分ヲ倉庫ニ貯藏セシ
ムルモノト仮定ス

五、東京衛戍勤務補助トシテ名古屋ニ在リ步兵二大隊ヲ一ケ
年間東京ニ駐屯セシムルモノト仮定ス

六、現在威海衛ニ鎮軍諸隊歸朝後經常費ニ移ル時
期ハ新ニ交代スヘキ同方鎮軍東京方發後一ケ月ノ後ト仮
定ス

七、同軍諸隊復員ノ爲ニ歸郷セシムル人莫ハ第二軍事課ニ

於此調査ノ結果ニ依ルモノトス

ハ同軍諸隊諸般復旧ノ爲ノ物件受授等ニ要スル經費ハ從來ノ經驗ニ準據シ各分擔局課ニ於テ適宜算

定スルモノトス

九同軍隊ノ補充隊ハ明治二十九年六月尽日限り解隊スルモノトス

但シ補充隊ノ人員ハ明治二十八年定期入營ノ現役

兵ノミトス

陸軍省